

広 陵



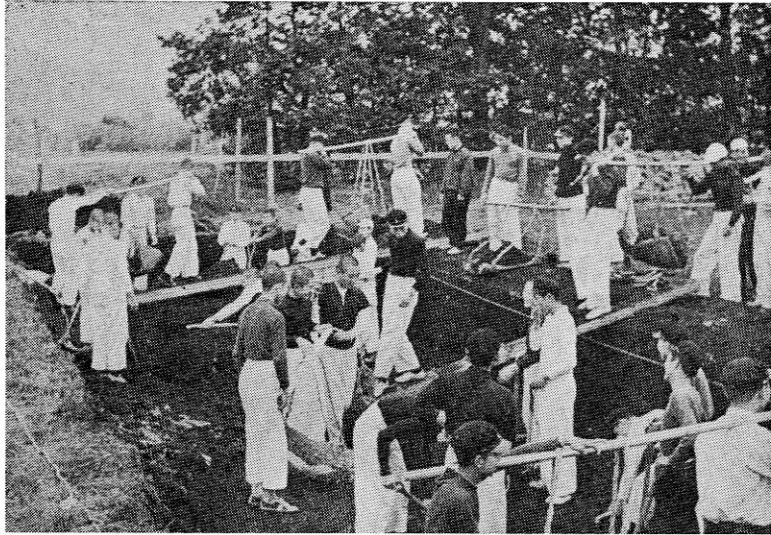
第 9 号 各支部だより号

55. 8. 1

55年度 総会 8月24日(日)

神奈川県立秦野高等学校同窓会々報

《 思い出のシリーズ 》 (そのⅨ)



現在のプールは、昭和32年7月に完成した。その披露式には、時のオリンピック選手、フジヤマのトビウオ橋爪四郎選手が模範演技を披露した。この風景は、その工事に着手したばかりの時に、生徒たちの手で土の掘り起しをしている。渋谷先生の姿が見える。

同窓会々報 第九号 目次

表紙	写真(全紙面)「かぶらぎ写真館」	宮本信義(中5)
題字	「かぶらぎ写真館」	蕪木孝之典(中15)
総会のご案内	予算・決算のご報告	1
各地区支部だより	秦野・大根	原 晟・杉山 健
	伊勢原	能条 斐雄
	大磯	梅田 義雄
	湘南茅ヶ崎	相原 昭二
	法曹会への勧め	深田 源治
	母校からこんにちは	12
	母校の近況など	母校校長 岡本 弘
	どうぞよろしく	母校教頭 角 田 袈裟彦
	進学カルテ	遠 藤 清
	弓道・陸上部	宮地日出夫・伊藤律子・石原春男
	教育実習生の受け入れ	16
		土 屋 毅
編集後記		18

伊勢原、でお会いしましょう!!

秦中高 10,000 有余の同窓生諸君

総会日時 8月24日(日) PM 2:00から

総会会場 伊勢原 料亭“こみや”
伊勢原市伊勢原285 電話 0463 (95) 0209(代)

会費 2,500円

駐車場は少々ありますが、車は御遠慮ください。

総会日程

PM 1:30 受付

PM 2:00 総会

54年度事業報告及び決算報告

55年度事業計画及び予算案審議

その他

PM 3:30 懇親会

総会のご案内

昭和55年度 秦野中・高同窓会

総会のご通知

会長 加藤 頼章

定例総会が八月二十四日伊勢原で開催されます。毎年参加者が少ないので各幹事さんが開催時期、方法についていろいろ論議の結果別記のようにになりました。伊勢原地区支部の諸兄が設替してくれました。
どうか會員諸兄の多数のご参加をお願いします。

54年度事業報告

5月〜7月

関東大会↓陸球二名、陸上七名、柔道七名
全国大会↓陸上一名

出場選手に激励金をおくる

なお、十月体育祭、十一月校内一万里競走、二月部対抗駅伝に賞品をおくる

5月23日(水) 同窓会造林の調査につき、北斐野生産森林組合と協議する。(於、レストランやなぎ家)

5月26日(土) 幹事会(予、決算案、総会など)。(於、やなぎ家)

8月1日(水) 会報第八号発行

8月16日(木) 北斐野生産森林組合と会談、同窓会造林の調査結果報告を受け、契約期限延長と、間伐計画について検討する

8月26日(日) 総会予、決算案、造林契約十年延長間伐などを可決(於、レストランやなぎ家)

3月1日(土) 母校卒業式、新会員四四六名を迎える

上記の他、記念造園の導入、プラスチック部助成、名簿販売を行う

55年度事業計画

一、幹事会、総会の開催

一、会報第九号の発行

一、会費納入の促進と、支部強化

一、名簿販売

一、在校生活動支援

一、同窓会造林の間伐

一、記念造園の整備

一、慶弔

記念館設立準備積立金会計報告

前年度末残高 五五・五・三一現在
利子 五、三一四、一五八円
會計 二八三、七四七円
五、五九七、九〇五円

昭和54年度 決算報告

収入の部 (54.4.1→55.3.31)

項 目	本年度	本年度
	予 算 額	決 算 額
	円	円
前年度繰越金	2,105,348	2,105,348
卒業生入会金	892,000	892,000
会 費	1,100,000	1,436,500
雑 収 入	25,000	99,380
合 計	4,122,348	(イ) 4,533,228

昭和55年度 予 算 案

収入の部 (55.4.1→56.3.31)

項 目	前年度	本年度
	決 算 額	予 算 額
	円	円
前年度繰越金	2,105,348	2,785,278
卒業生入会金	892,000	882,000
会 費	1,436,500	1,000,000
雑 収 入	99,380	25,000
合 計	4,533,228	4,692,278

支出の部

項 目	本年度	本年度
	予 算 額	決 算 額
	円	円
会 議 費	150,000	(141,000)
総 会 費	100,000	100,000
幹 事 会 費	40,000	41,000
委 員 会 費	10,000	0
事 業 費	(1,630,000)	(1,504,950)
支 部 育 成 費	300,000	245,000
在 校 生 活 動 費	230,000	234,000
プ ラ ス バ ン ド 助 成 費	50,000	50,000
造 林 調 査 費	100,000	32,760
造 園 維 持 費	50,000	50,000
慶 弔 費	50,000	33,810
会 報 発 行 費	850,000	859,380
事 務 費	(112,000)	(102,000)
事 務 局 費	100,000	100,000
通 信 費	5,000	0
印 刷 費	5,000	0
森 林 組 合 賦 課 金	2,000	2,000
予 備 費	2,230,348	(0)
合 計	4,122,348	(ロ) 1,747,950

支出の部

項 目	前年度	本年度
	決 算 額	予 算 額
	円	円
会 議 費	(141,000)	(160,000)
総 会 費	100,000	100,000
幹 事 会 費	41,000	50,000
委 員 会 費	0	10,000
事 業 費	(1,504,950)	(2,170,000)
支 部 育 成 費	245,000	300,000
在 校 生 活 動 費	234,000	600,000
プ ラ ス バ ン ド 助 成 費	50,000	50,000
造 林 調 査 費	32,760	50,000
造 園 維 持 費	50,000	70,000
慶 弔 費	33,810	150,000
会 報 発 行 費	859,380	950,000
事 務 費	(102,000)	(112,000)
事 務 局 費	100,000	100,000
通 信 費	0	5,000
印 刷 費	0	5,000
森 林 組 合 賦 課 金	2,000	2,000
予 備 費	0	(2,250,278)
合 計	1,747,950	4,692,278

次年度繰越金(イ)-(ロ)=2,785,278円

門倉 照雄 19 泰野支部規約

鶴巻上

原田 栄治 9 (目的)

福田 三郎 高13 第一条 本会は神奈川県立泰野高

北村 久幸 18 泰野支部(以下支部という)とし

片野 弘行 17 て本部の事業を積極的に応援、推

北根一 北矢名◎原田 正志 高2 進し母校の健全なる発展に貢献す

高橋 修二 高4 員相互の親睦を図ることを目的と

青木 伸夫 6 する。

星野 庄司 6 (事務所)

大根三 南矢名◎高橋 琢二 中10 第二条 支部の事務所は支部長宅

高橋 登 19 におき、地区毎に地区事務所を設

志村 佐一 高5 けることとする。

杉山 崇中 16 (会員)

大根四 宿矢名◎高橋 敏夫 15 第三条 支部は泰野市在任の同窓

青木 繁美 6 組織する。

大根五 下大槻◎伊奈 重蔵 中15 勤務先その他支部の事業活動遂行

原 興二 13 上必要な事項に変更があったとき

原 由夫 高4 は、その都度速かに在任地域を担

谷屋 和夫 中16 当する役員に通知するものとす

内田 洋高 14 。

(組織及び役員)

第五条 支部の組織は別表に定め

る通りとし、次の役員をおく、

顧問 若十名

参与 〃

支部長 一名

副支部長若十名

地区長 〃

地区主任 〃

事務局長一名

総務 若十名

地区総務委員 若十名(地区毎

に二名)

会計 一名

監査 一名

第六条 顧問は本部の会話、副会

長経験者及び支部長、副支部長の

経験者並びに支部活動に功績のあ

つた者をもって充てる。

第七条 参与は地区主任のうち支

部活動に功績のあったものを充て

る。

し、総会又は役員総会において、

出席者の三分の二以上の同意を得

て定める。

第九条 副支部長は支部長を補佐

し、支部長に事故のあったときは

予め定められた順序により、又は

支部長の指名により、その業務を

代行する。

3、副支部長は地区長又は事務局

長を兼ねるものとし、地区長は担

当する地区の事業活動を統括推進

する。

事務局長は支部の事務全般を統

括推進する。

4、副支部長は地区長を兼ねる者

にあつては、地区毎に地区主任委

員、地区委員の会議推せんによる

ものとし、事務局長を兼ねる者に

あつては支部長の推せんにより役

員総会の同意を得て定める。

第十条 地区主任は地区長を補佐

る。

第十一条 地区委員は地区主任を

補佐し、担当する地域の会員を掌

握し、事業活動を行う。

2、地区総務は副支部長会議にお

いて合議決定する。

第十三条 地区総務は地区長を補

佐し、庶務会計その他の事務を行

う。

2、地区総務は地区長が推せんし

当該地区の地区主任の同意を得て

定める。

第十四条 会計は支部の会計に關

し毎年一回役員総会に報告するも

のとする。

2、会計は副支部長会議において

推せんし役員総会をへて決定す

る。

第十五条 監査は毎年一回支部及

び地区の財政、出納について監査

を行う。

2、監査は副支部長会議において

推せんし、役員総会の出席者の同

意を得て決定する。(会議)

第十六条 支部の会議は総会、役員総会、地区主任会議、副支部長会議とする。

第十七条 総会は概ね三年に一回とする。

第十八条 役員総会、地区主任会議は副支部長会議の結果必要と認めるとき、支部長が招集する。

第十九条 副支部長会議は支部長が必要と認めるとき随時招集することができる。

第二十条 会議の決議は出席者の三分の二以上の同意を得て決定する。

(会計)

第二十一条 支部の費用は、会費の徴収その他本部の事業活動に協力することにより、支部育成費及び寄付金をもってこれに充てる。

第二十二条 地区の費用は地区の会員数その他を勘案し必要の都度副支部長会議において決定し支出する。

大根地区のうごき

杉山 健 (中)

わたしが当時の奈珂中学校を卒業してより四四年がすぎた、目的が母校でもあるので、人一倍の愛校心をもつ。そんな関係で停年退職後は奈野支部大根地区長をやっている。年度会費の徴集と「広陵」を各大字の地区主任に配るのが仕事である。

各大字の地区主任は三〜八つ位いる現在、この支部でも三人やにわかれた地区委員にその「広陵」をまわらせるわけで、それを各委員が各卒業生の自宅に配布するしくみになっている。

殆んどの地区主任や地区委員は嫌な顔もせず、非常に協力的に年額五〇〇円の徴収をしてきた。毎年十万円はくたらない。地元の人も大助かりである。

又奈野支部では支部育成費の中心から会員死のとき花輪を出しておられる。この制度は会員の支部組織に対する再認識の上からでも何かの役に立っている。未組織の支部では以上のような大根地区のうごきを参考にされて一日でも早く組織化に努力されるよう希望します。一万人も会員の

「学校林の下検分を控えて」昨年七月、同窓会側から加藤会長、園田孝氏とわたし、北栗野森理事組合より大沢清英組合、小泉まななつていた菩提「岩の台」養高山林地の下検分を行った。目的は間伐可能な地区の選定で

ある。この地点は最近、東京電力の新神奈川変電所の建設に伴い、送電線の鉄塔の線下保障等により急にクローヌアップされたところである。

A地区は樹齢四十年の檜と杉で間伐すれば今後良質の木材を出荷できる有望なところ。B地区もA地区にやや劣るも五寸角がとれる位の良質の檜が育っていた。C地区は一部はよいが大部分は間伐しても価値が乏しいのではな

い。 「枝打ち」等の話も出たが時期的にすでに遅く、するならば樹令の早い時期にすべきで枯枝は死節になって板にしても穴があくので人間と同じで木も枝を落とすなどして若いときに整枝しなければいけないなどいい教訓を得た。

この理解と地区役員の人並みならぬ努力により五四年度は予想通り徴集できました。厚く御礼申し上げます。以下五四年度の徴集状況を報告します(残れた地区については来年度報告します)

地区	取扱者	人数	金額
本町	高橋義則	8	4,000
青木忠治	川戸貞助	13	6,500
川瀬義雄	宮永浩年	18	9,000
川瀬義雄	森崎信之	12	6,000
宮永浩年	原 忠夫	24	12,000
森崎信之	辻浜博道	10	5,000
原 忠夫	桜井五雄	6	3,000
辻浜博道	松本正司	12	6,000
桜井五雄	栗原英男	4	2,000
松本正司	栗原英男	25	12,500
栗原英男	桐山金吾	30	15,000
桐山金吾	松下昭二	8	4,000
松下昭二	片倉孝二郎	2	1,000
片倉孝二郎	小島茂行	7	3,500
小島茂行	市川 昇	15	7,500
市川 昇	石井俊雄	11	5,500
石井俊雄	小泉真一	23	11,500
小泉真一		20	10,000

小松忠史	小泉弘孝	飯尾美甫	原 威	梅野吉俊	真壁英明	北村 茂	相原伊三夫	内藤美彦	川口幸良	佐藤健司	露木 茂	鈴野朝喜	加藤 武	上村相模	堤 健	加藤 健	和田 大	石塚秀雄	三杉光史	小林 充	瓜本正一	三獄三郎	鈴木正巳	栗原量平
7	9	32	9	32	4	5	5	4	6	7	7	7	19	5	7	12	24	27	30	19	16	12	11	23
〇〇〇	〇〇〇	四六、五〇〇	〇〇〇	四六、五〇〇	四、五〇〇	二、五〇〇	五、〇〇〇	四、五〇〇	三、〇〇〇	三、五〇〇	三、五〇〇	三、五〇〇	九、五〇〇	二、五〇〇	七、〇〇〇	七、〇〇〇	三四、〇〇〇	二一、五〇〇	一五、〇〇〇	九、五〇〇	八、〇〇〇	六、〇〇〇	一、〇〇〇	三三、五〇〇
西	西	西	西	西	西	西	西	西	西	西	西	西	西	西	西	西	西	西	東	東	東	大根	大根	大根

石井不男	川口健一	関野 進	石原忠男	神保行広	中島正一	大森圭三	清水 涉	関野義一	亀山金造	林 為紀	大津一男	萩原和男	渋谷富治夫	熊沢卓士	山口英雄	久保寺正男	三獄實士雄	永山孔昭	森 茂	小泉 功	一	二	〇	〇
23	3	7	13	32	21	11	11	12	18	4	11	9	26	18	20	37	33	33	20	41	36	11	2	〇
二、〇〇〇	一、五〇〇	七、〇〇〇	二、五〇〇	三、〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇

伊勢原支部だより

伊勢原支部会々長

能 条 斐 雄 (中6)

青葉の折柄、皆様には益々健康々、相当活発で、中心支部の桑野勝のごことお喜び申し上げます。支部にも劣らない程の活動を展開させていることは、誠に同慶にた共、母校の健全なる発展に貢献、えません。

この目的の具現に一步でも近づくと、伊勢原支部の運営も、またわが村松彰道氏(中6回卒)を送り、母校同窓会の推進役として、熱心な活躍を頂いている。

幸いにも本支部は昭和四十八年渡辺元彦氏(中11回卒)の非常なご努力と、各位のご協力によって支部の組織固めを行い、本校昭和五十一年度の創立五十周年の行事に對処することができた。

本年は、本校総会の会場運営を本支部が担当するので、その準備も兼ねて、七月五日に支部役員会(併中1回卒)をはじめ、役員諸氏を實施することになっている。

氏の献身的な奉仕によって、年の同窓会費の徴集や、会報の配布などを推進している。

また、支部内各地区の活動も夫

用されると、桑高の通学区域は、かつて同様なことが行われたが平塚市を始め東海道沿線が、現在の学区から分離され、同窓会にも多少の変化が考えられ、わが伊勢原支部の責任は一層大きなものになると予想されるのである。

母校の卒業生約一一、三〇〇名の約三〇%が、本市の出身で、その約半数の一、五〇〇名近くが市内に在住され、現在、本支部の会員である。

桑高創立以来の質実剛健の気風を継承して、各会員が、家庭や職域や社会のために、夫々活躍頂いていることは、誠に喜ばしい限りです。

尚、八月二十四日(日)の総会には、多数ご出席頂き、久し振りに一堂に相会して、旧交を温め、過ぎし日の思い出や、現在の生活や考え方、将来の夢などを語り合いたいと思っております。

最後に、会員皆様のご多幸とご

らお祝を申し上げた次第です。

伊藤さんは五十年記念誌にも出品して下さいたいことは記憶に新なことです。

次に私達と共に奈珂中学時代を過ごされた大磯町在住の斉藤栄一さんが今春藍綬褒章を受章されました。

斉藤さんは中学九回卒業で大磯町の薬局老舗、中栄堂の店主として奥様お子さんと共々家業にいそしんでおられ非常な繁栄振りでももうらやむ御家庭です、又親子二代洋蘭栽培の名人で知る人ぞ知る豊かな趣味の持主です。

その斉藤さんは以前から消防事業にたずさわり県下では勿論広く斯界の発達のため献身的な努力をなされた方で、この度の受章はその功績をたたえてのことと思います。

私達同窓の一員としてもこの上ない喜びのことであり支部を代表してお祝いに参上した次第です。

さて、このお祝いで日本が

高度成長と言う言葉が出来て三年目になります、この間資源の乏しい日本は輸入を毎年増加させ、その見返りとして輸出を毎年増やしてゆく政策をとって来て今や世界の経済大国にのし上って来ました。

国民生活もその経済成長の歩みと共に大幅の改善がなされてきたことは事実です。然しその反面生産拡大とか新生産方式の増加等から生れた公害問題等人間が生きてゆく上に害をなす幾多の問題災害の多様化が各所で発生し増加していることは大変憂慮されること

で伊藤さん、斉藤さんのお二人は日本経済成長の裏方とも言ふべき人間尊重の大眼目にそれぞれ道こそちがえ努力されておられるわけです。このことを「広陵」を通じてお伝えし重ねて祝意を表すると共に同窓各位から続く伊藤さん斉藤さんの輩出を希うものです。

私共茅ヶ崎支部は青木園野諸先輩の御尽力によって昭和四十三年頃結成され、学区の関係上會員の大半は平塚家野伊勢原地区など、大の転居者によって構成され、過ぎ去り回茅ヶ崎在住者による同窓会を開催いたしました。(最終昭和51年)

広陵第一号が発行された次年度に大まかま愚息の入試の時期でしたので急に母校が身近に感ぜられ亡くなった父も金目であった母校の前身に学んだと聞きおよんでおりましたので区外でしたが母校のお世話になりました。

その様ないきさつで、50周年記年事業に諸先輩と共に参画させて頂いた頂きました。

当地も人口漸増地帯のこととて新名簿によれば新会員も大幅に増

湘南茅ヶ崎だより

相原 昭 二 (中17)

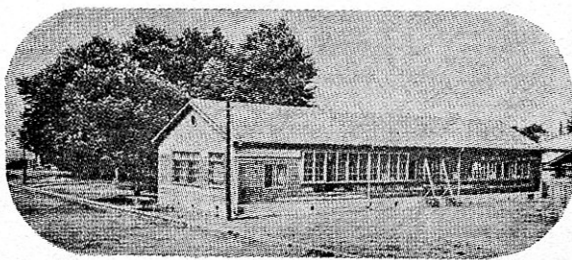
加いたしておりますが、私共も日々の業務に追はれその後は合会も活動も催しておりますが。

会報並びに総会など出席して他区の活発な行動を聞き及び、皆地方の熱意には到底及びませんが今後は藤沢地区在住者にも呼びかけ、職域の違いをこえた緊密化と連帯感を強め湘南支部組織の拡大充実をはかり母校並びに同窓会発展のために微力ながら寄与したいと念願いたしておりますので区外の皆様も私共のために助言、鞭撻の程よろしく願います。

旧武道場

剣道柔道で日々心身を鍛練した。

(新校舎完成直前の姿)



法曹への勧め

深田源治(中21)

「法曹会」というあまり聞きなれない言葉があるが、これは、裁

判所、検察庁(在朝、これを司法

界ともいふ)と弁護士(在野)の

三者を言い、法曹三者とも呼ばれ

ている。いずれも国の三権の一つ

「司法」に携わる重要な職務であ

る。こはいうまでもない。このう

ち裁判所、検察庁に勤務するもの

は国家公務員(特別職と一般職が

ある)であり、弁護士が民間人で

ある。こは、承知のとおりです。

そして、この法曹の世界で働く裁

判官(判事)判事補と検察官(一

級検事・二級検事)、並びに、弁

護士については、司法試験に合格

し、司法修習生として二年の修習

課程を終る必要がある。こは、最

近かなり知られている。

もちろん、裁判所や、検察庁は

所長・法務技官等)、公安調査庁

出入国管理事務所などがある。そ

して、これらの国家公務員につい

ては、その職務の繁忙、重要性の

ゆえに給与等において優遇される

ことが多い。

また、弁護士は、各都道府県の

弁護士会に入会したうえ、刑事事

件の弁護士(私選又は国選)、民

事事件の訴訟代理人として活躍す

るほかに、国会議員・地方議員を

兼任することができ、その他県や

市の公的な各委員、裁判所の調停

委員などに選任される。こが少な

い。

そこで、わが秦野旧中学、高校

の卒業生で、法曹会において活躍

している先輩、後輩の方々を私

知る限りにおいて紹介し、在校生

や卒業生及びその子弟らに対し、

この世界に進まれるようお勧めす

る次第です。

まず、弁護士では、高橋茂氏(高

三回、昭和二年卒。以下いずれ

も敬称を略させていただきます)

ただ一人でしょう。

検察庁では、大先輩、桑原孫一

(旧中、昭和三年卒)が横浜地

検検事を最後に退官され、現在公

証人。次に、山口昇(旧中、昭和

一八年卒)、横浜区検副検事。相

原敏夫(右同)、横浜地検課長。

草山国光(旧中、昭和二〇年卒)

千葉区検副検事、和田行雄(高一

昭和二年卒)、相模原区検課長

望月英雄(高三、昭和二六年卒)

横浜地検小田原支所係長。飯田博

(高七、昭和三〇年卒)、同地検

係長などがある。

裁判所においては、先ず、先輩

の坂間祥(旧中、昭和一六年卒)

横浜地裁主任書記官。同じく井上

勝夫(旧中、昭和二年卒)、横

浜地裁小田原支部。山口勇(旧中

昭和二年卒)、保土ヶ谷簡裁主

任書記官。栗原幸男(旧中、昭和

二年卒)、東京家裁主任調査官

次いで、私、深田源治(旧中、昭

和二年卒。高回と同期)、現

在名古屋地裁判事(民事部長)。

私と同期の平本義孝、裁判所書記

官研修所教官(簡裁判事)。同じ

く座間章、最高裁判事局係長。更

に安藤英昭(高七、昭和三〇年卒)

最高裁判事局係長などを挙げる。

もたくさんある。

もとよりこれらの法曹や職員と

なるためには前述の司法試験のほ

か、国家公務員に関する各種資格

試験、内部での昇格、登用試験な

どの試験を経なければならぬ。

とはいうまでもなく、日本の司法

のために、志ある後輩諸氏の健

闘、奮起を願ってやみません。

「金報」を飾る写真

蕪木孝之典氏(中15)提供

秦野市で「かぶりき写真館」

を経営、秦野市写真館の老舗、

母校創立当初から親子でアル

バム作成など、技術とまじりこ

ろで尽力されている。

私の住んでいる伊勢原支部の成瀬地区は、先輩方の少ない所である。

これは今から約二十年前に学区の編成替があったこともその一因であろう。

だから会員の多くは三十歳台の者が最も多い。

ヤング達である。

私は、先輩諸

氏の方々から、

母校創立五十周年の醸金集めの

仕事を手伝わせてもらった。

この機会には非会員のままとり、親睦を図れたらと思ひ、役員で二〜三回懇親会も計画して

みましたが、残念なことに参加者少数のため、止むを得ず中止いたしました。

やはり、若者が多いだけに、もっと子ウな計画の方がよかったのかも知れません。

同窓のきずなと云うものはお

うおっにして身近なところではわからないものかも知れません

え。

私は、大学を卒業して三年目の時に、新潟の同級生（大学時代の）の所に、出張の帰りに尋ねていった時、友人の同じ職場

に、大学の先輩がおられ、見も知らぬ初めて逢った私に夜おそ

くまで歓待してくれた。

この時に、同窓と云うだけでこんなに素晴らしい人間関係が持てるのかと感激した。

事実、地区会員の会合などに参加した時に、「なんだ、○○さん

さんも楽高だったの」ちっとも知らなかった」などと話はす

み、その人がもっと身近な存在に見えて来るから不思議なもの

だ。

これが、同窓の真髄かとも考

同窓意識

能条

剛（高17回）

この同窓意識が、市町村・部落の自治会活動や、日常生活にいい意味でのまとまりとなつて生かされれば、こんなに素晴らしいのではないかとおもつ、我々よりも本部役員・学校幹

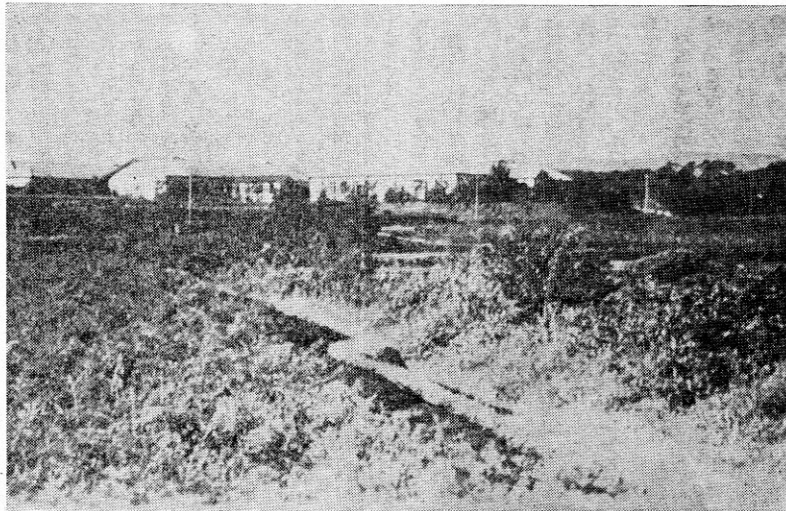
事の方々の御苦

労も多々あると思ひますが、その苦勞の万分の

一でもむくいるためにも、先輩諸氏の指導をおおき、一体とな

つて地区活動を考え、親睦を図つていけたらと思ひます。

最後になりましたが、これからさらに暑さに向うため、会員の皆様にはくれぐれもお身体を大切に、御活躍下さるようお祈りいたします。



昭和8年頃の母校の遠景

各教科・科目の標準単位数等

母 校 か ら

激動の80年代、高校教育の流れ
「学区再編」、「教育課程の改定」
わが母校も着々と、冷静に、か
りない対応を目指して始動しつ

どうぞよろしく

母校教頭 角 田 袈裟彦

同窓会の皆さん、はじめまして
昨年九月、山崎教頭の後任として
まいりました角田でございます。
どうぞよろしくお願いたします
わが秦高のシンボルである校庭
の銀杏のプラタナスの大木の緑が
目にしみます。
頑張ります。

さて、考えようによっては、本
校の将来を大きく左右するかも知
れない大きな改訂が二つ実施され
ることになりました。
その第一は、来年度から実施さ
れる「通学区」の改定です。同
窓生の皆さんは既に新聞紙上その
他でご承知と思いますが、従来の
(1)学校の主体性の尊重
課程」が大幅に変わります。
次に昭和五十七年度から「教育
課程」が大幅に変わります。
文部省が示した改訂の基本方針
は次の四つです。
た。

教 科	科 目	標準単位数
国 語	○国語現代語 I II 現代語 I II 現代語 I II 現代語 I II 現代語	4
		4
		2
		3
社 会	○現代社会 I II 現代社会 I II 現代社会 I II 現代社会 I II 現代社会 I II 現代社会	4
		4
		4
		4
		2
		2
数 学	○代数幾何 I II 代数幾何 I II 代数幾何 I II 代数幾何 I II 代数幾何 I II 代数幾何	4
		3
		3
		3
		3
		3
理 科	○物理化学 I II 物理化学 I II 物理化学 I II 物理化学 I II 物理化学	4
		2
		4
		4
保健体育	○体育 I II 体育	7~9
		2
芸 術 (必修単位) 3	音楽美術 I II 音楽美術 I II 音楽美術 I II 音楽美術 I II 音楽美術 I II 音楽美術 I II 音楽美術 I II 音楽美術 I II 音楽美術 I II 音楽美術 I II 音楽美術 I II 音楽美術 I II 音楽美術 I II 音楽美術	2
		2
		2
		2
		2
		2
		2
		2
		2
		2
		2
		2
		2
		2
外 国 語	英語 I II 英語 I II 英語 I II 英語	4
		5
		3
		3
家 庭	○家庭一般	4

○印は必修科目を示す

カルテ進学 二 校から 二 母 寸描

- ▷ 私立受験が圧倒的、国公立受験への意欲向上を ◁
- ▷ 伝統私大の門はますます狭く ◁

進学係主任 遠藤 清

今春の進学状況についてその概略を報告いたします。
 五十五年三月の卒業生四四二名（男子三〇七、女子一三四）のうち大学（含短大各種、専門学校）を受験した者は三八六名（男二六五、女二二一）で約八八%でありました。これに対して実際入学した者は、男子一四五名（受験者の五五%）、女子一三三名（同九三%）でありました。その結果、男子二二〇名、女子八名が再度来春への望みをかけて浪人中であります。

進学先別の人数を別表に掲げましたが、大学、短大につきましても例年に比べて大きな変化は見られません。私立中心型が増々濃くなり、国公立受験者は減少気味であります。これは、共通一次テストで幅広い知識を問われ、二次では深い理解力を要求される二本立ての試験への対応ができず、敬遠してしまう傾向にあるのではないかと思われます。

又、これも例年の傾向であります。本校の生徒は、自宅から通学できることを条件とし、都内、又は県内の大学へ殺到し、更に全中する厳しい受験競争の真ただ中に乗り込むことになるわけです。その中で満足した戦果を得るため、やはり直前での場当り的な勉強では役立たず、遅くとも二年生後半頃より積極的に受験勉強にとり組むことが必要であり、私達教師も生徒の奮起を促しています。又最近の受験生増加に伴い、大学の新設、増設等が進んできた中で、戦前から設置されていた、いわゆる古い伝統を持つ大学への入気が高まり、それらの大学への入学が極めて困難になってきているように、本校からの合格者も浪人の方が多くなっています。

系統別に見てみますと、合格者全体の約五十五%が文化社会系統三十五%が理科系、残り十%が農水産、薬学、歯学、芸術系統となります。最近進路の多様化が進み中で、各種、専門学校への進学者については、昨年比べてほぼ横ばいの五十三人が入学しています。明確な目的意識を持ち、特定の技術、資格の取得を目指すものとして、

ないからといって安易な気持ちで入学する生徒もいるようですが、特定の技術を身につけるには、それなりの厳しい勉強が要求されるに耐え切れず挫折することのないよう頑張ってもらいたいと思っております。統々と果立つ後輩を同窓生諸氏の暖い目で見守って下さるようお願いいたします。

各種・専門学校 進学者数

系統別	男	女	計
系統別	17	24	196
工業系	2	4	50
医療系	2	9	111
衛生系	1	5	65
商業系	2	1	3
福祉系	2	1	3
実務系	2	1	3
家政系	2	1	3
文化系	2	1	3
芸術系	2	1	3
合計	28	25	53

弓道部

男子団体 堂々三位に入賞

県総体兼全 顧問 宮地 日出夫
国大会予選 伊藤 律子

昨年、県民大会兼国体予選では、個人ともに優勝をし、また、県武道錬成会の大会でも個人で二位という輝かしい伝統を着々とくり上げてきた弓道部。

今年も全国大会出場への悲願を胸に日頃の練習に切磋琢磨してきた。4月20日に厚木東高で行われた県民大会兼国体予選では、二年の杉山 博、三年の福島三枝子が決勝に進出したが、いずれも一本差で上位入賞ならず、杉山は敢闘賞、福島は七位に終わった。

5月25日、その日は秦野日和で選手ものびやか春うららであった。待望の県総合体育大会兼全国大会予選が同じ厚木東高で行われた。全国大会へは、個人戦で男女とも二位まで、団体戦では一位のみが出場できるのである。秦野は、個

人、団体戦ともに次のメンバーが出場した。(女子)

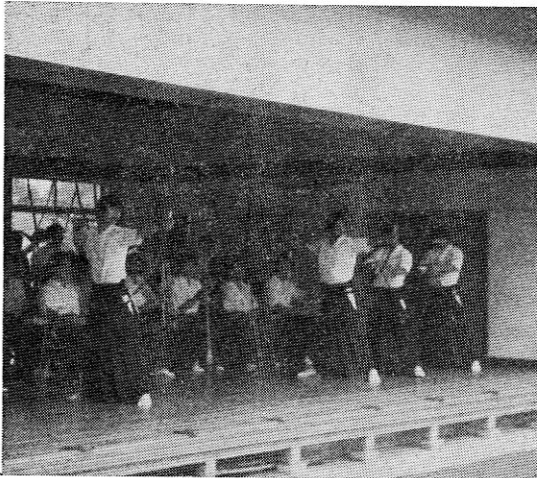
大前	小早川純子	三年	団体戦は5月25日の予選では、わが秦高は十五中で、十六中の鶴見女子、平沼を二本差で追って三位につけていたが、6月15日の上位八チームによる決勝では、優勝を意識してか全員矢が浮き、ベスト8に終り、会場から秦高に同情するため息がもれた。
二番	宇留野嘉枝	"	
中	中根由美子	"	
落前	飯田 貴子	"	
落	川井 直子	"	
大前	青木 武史	三年	
二番	小泉 哲郎	"	
中	岩出 義弘	"	
落前	森屋 敏久	"	
落	原田 祐一	二年	

〔女子の部〕

立順は女子からで、個人・団体戦が並行して行われた。始まるや否や立順三番手の秦野に奇蹟が起きた。小早川から始めて、川井までいけば、二人とも全国大会出場ができたのであるが、またして

会場から秦野強しの大歓声と榮譽を讃える大拍手が鳴り響いた。この日、個人戦では飯田貴子の活躍が目覚ましく、八射五中。あと一本当たれば全国大会に出場できたが惜しくも一本の矢が的をかすめただけで終り、結局は飯田は四位に入賞しただけで涙をのんだ。

も無念の涙をのんだ。団体戦では、わが秦高は、慶応に六本、川和に一本差で三位につけ、6月15日の決勝に臨んだが、期待される。破れ三位に終わった。しかし、これは、弓道部はじまって以来の快挙であり、来年の全国大会予選が、今後の先輩諸兄の暖い一層のご指導、ご声援をお願いします。



健闘する岩出・森屋・原田 (右側の3名順に)

=陸上部=

三種目で全国大会に出場

顧問 石原春男

去る五月二十四日、二十五日県 三米二千で優勝、五〇〇〇米でも立体育センター競技場で県高校総 今川が十五分二十三秒五で優勝、合体育大会が行われた。第一日 千六〇〇米リレーは三分二十六秒目、千五〇〇米で今川博喜が四分 二で三位に入賞し、関東大会に駒



神奈川高校長距離界のトップランナー今川選手
一、五〇〇mでの活躍が期待される。

関東大会は、六月十三日から十八を投げて五位に入賞、第三日千五〇〇米リレーでは第一走者の遅れをよみ取り返して三分二十二秒一は三十分五秒台が出るかどうかの秦高新記録で三位に入賞した。開かれた。今年から南北二つに分れての大会ということで今までのそれよりちょっときみしい大会であったが本校生徒はよく健闘し三種目に入賞した。まず第一日目の千五〇〇米では今川が四分三秒五で三位に入賞、女子円盤投で岩元が第六投目で逆転の三十四秒二

八を投げて五位に入賞、第三日千五〇〇米リレーでは第一走者の遅れをよみ取り返して三分二十二秒一は三十分五秒台が出るかどうかの秦高新記録で三位に入賞した。開かれた。今年から南北二つに分れての大会ということで今までのそれよりちょっときみしい大会であったが本校生徒はよく健闘し三種目に入賞した。まず第一日目の千五〇〇米では今川が四分三秒五で三位に入賞、女子円盤投で岩元が第六投目で逆転の三十四秒二

この全国大会(松山市)に出場するわけですが記録的にみると千六〇〇米リレーが一番楽しいかなと思います。たぶん準決勝の通過多くなってくる覚悟です。卒業生諸兄の応援をよろしく。



女子円盤投げて秦高初の全国大会出場の岩元陽子選手(3年生)のフォーム

教育実習生の

受けれも限界に

最近、教育実習の希望者が増加する一方です。母校でなければ受け入れもままならない現状ですが卒業生だけでも、パンク状態です。母校ですので、極力、先生方も受け入れてやりたいと精一杯努力しているのですが、なしろ、三十名を超すような人数では、もうどうにもなりません。また、教員採用試験も、七月二十日頃ですの前期(六月初旬)の希望者が殆どこのごろこともあり、後期(十月上旬)は実施していません。希望される方は、なるべく早く申し込みをして下さい。(一年前位が多い)

人数が限界に達した場合は、卒業生でも、お断りしなくてはならない状況にもなるかも知れませんので、御了承をお願いします。

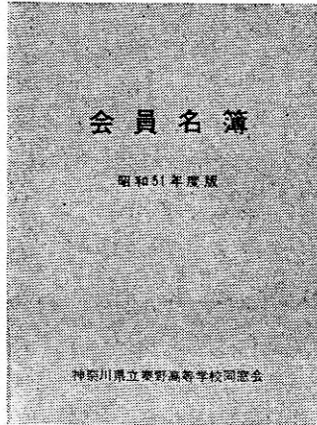
(担当 土屋 毅)

＝お願い＝＜校内1万米競走大会の特集＞

昭和22年に始まって以来34年目、回数で35回を迎える校内1万米競走大会。次号第10号でその沿革、変遷や、エピソードなどを特集したいと考えています。

なんでも結構です。情報、エピソードなど寄せて下さい。

(宛先 事務局 秦野高校内 込山英雄まで)



名簿の販売に

ついて

会員名簿を五十周年記念事業の一つとして発行しましたが、残部がありますので、御活用ください。同期会や地区会の折など事前に本部宛ご連絡いただければ御手配いたします。

(中根三郎)

- ◎B5版 本部 三五〇ページ
- ◎一冊 一三〇〇円(送料共)
- (但し手渡しの際は千円)
- ◎送金は、同封の振替用紙または現金封筒でお願いします。

会費納入お願い

昭和四十六年度より会費を徴集することになりました。従来なかつたことですが、本会発展のため、絶大な御協力をお願いしませう。年会費五〇〇円。

原稿お寄せ下さい

紙面が豊かになり楽しくなるのも、一つ會員のみさんの手にかかっています。とにかくニュースをお届け下さい。

送金の方法

同封の振替用紙に所要事項御記入の上、最寄りの郵便局で御送金下さい。別に振替手数料二十円を要します。なお、郵便局の受領証にて本会の領収書にかえさせていただきます。

(石原記)

編集後記

毎年ながら、学期末と重なり、夏休み返上で今年も作りました。

(土屋 毅記)

発行所 秦野市下大槻一三番地 県立秦野高等学校内

〒 257 秦野高校同窓会 広報委員会

- 発行責任者 村松晃男(中6回)
- 編集責任者 土屋 毅(高4回) 青木利之(高4回) 石井郷二(高7回)
- 電話秦野(06)257-1422-273
- 振替口座 東京二二二六八九